

平成 2 6 年度第 1 回豊川市社会教育審議会
会議録

平成 2 6 年 5 月 2 9 日開催

豊川市教育委員会生涯学習課

平成 26 年 5 月 29 日（木） 午前 10 時 28 分 開議

出席委員

会 長	山 城 康 司
委 員	伊 奈 克 美
委 員	藤 原 公 保
委 員	穴 吹 富貴子
委 員	藤 井 孝 男
委 員	長 畑 仁 敏
委 員	柴 田 功 己
委 員	西 田 政 彦
委 員	木 村 博 美
委 員	権 田 静 司
委 員	片 桐 早奈美
委 員	伊 藤 暢 子
委 員	宇 井 宏 次

事 務 局

教育部長	近 藤 薫 子
教育部次長	柴 谷 好 輝
教育部次長兼中央図書館長	久 世 康 之
スポーツ課長	中 村 幸 夫
生涯学習課長	前 田 清 彦
〃 課長補佐	尾 藤 哲 也 外 1 名

議事日程

- 1 平成 26 年度社会教育関係各種計画について
- 2 平成 25 年度社会教育関係各種実績について
- 3 その他

(午前 10 時 28 分 開会)

「事務局」 定刻より少し前ですが、皆さんおそろいですので、ただいまから平成 26 年度第 1 回豊川市社会教育審議会を開会します。本年度最初の会議でありますので、会長が選出されますまで事務局で会を進行させていただきます。最初に近藤教育部長よりご挨拶申し上げます。

「教育部長」 本年度第 1 回目の社会教育審議会に、ご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。日ごろ、本市の社会教育行政にご理解とご協力をいただきお礼を申し上げます。これより本市の社会教育について所管課長が説明しますので、ご審議くださいますようよろしくお願いいたします。

「事務局」 会議次第 3 により自己紹介をお願いします。

(出席者各自自己紹介)

「事務局」 本会議に委員総数の 2 分の 1 以上の委員に出席をいただいていますので、会議が成立することを報告します。会議次第 4 の役員の選出についていかがいたしましょうか。

「委員」 会長には山城委員、副会長には伊奈委員にお願いしたらいかがでしょうか。

(異議なく選出)

「会長」

(会長あいさつ)

「事務局」 それでは議事の進行につきまして、山城会長よりお願いいたします。

「会長」 それでは、議題 1 の「平成 26 年度社会教育関係各種計画について」事務局より説明をお願いします。

「事務局」 「平成 26 年度社会教育関係各種計画について」資料に基づき説明。

(生涯学習課長、スポーツ課長、中央図書館長説明)

「会長」 ただいまの説明につきまして、ご質疑がありましたらお願いします。

「委員」 とよかわオープンカレッジと近隣大学との連携は具体的にどのように進んでいるのか。講座は開設されているのか。

「事務局」 今年の秋に開設できるように調整している。昨年の 9 月に開催した生涯学習フェスタにあわせて、県の生涯学習センターの事業として愛知大学の教授による歴史系の講座を実施したところ好評だった。今年も愛知大学の協力を得て、3 回にわたる歴史系の特別講座を予定している。今後は他の大学にもお願いしていきたいと考えている。

「委員」 小学校 6 年生児童を対象とした三河国分尼寺跡史跡公園の見学事業は豊川市ならではのもののだが、成果をどのように考えているか。

「事務局」 史跡公園ができた平成 18 年からはじめている事業である。小学校 6 年生の祖父にあたる世代のボランティアの方々が説明を行っているが、異世代の交流を深め、子どもが聞いた話を家庭で話すことによって家族でも訪れてほしいと思う。継続して行っていけば国分尼寺への認識がさらに高まっていくものと思う。

「委員」 6 年生の子どもたちは、国分尼寺の見学にあわせて東海道の町並みを訪ねたり、社会科の学習に関連した社会見学をしている。とても良いことだと思う。

「委員」 修学旅行で奈良に行くが、東大寺につながる話も出てくるので良いことだと思う。

う。

「委員」 豊川市は歴史が豊かで文化財も数多くある。市民にも伝え、PRしてほしい。資料にハイブリッドな図書館を構築すると書かれているがどういうことか。

「中央図書館長」 今後、図書館では電子書籍化が進んでいくと思われるが、アナログとデジタルの情報資料の両方を融合して利用できる図書館がハイブリッド図書館である。どのように組み合わせて提供していくかが課題となっており、豊川市でもこの課題に取り組んでいきたいと思っている。

「委員」 とよかわオープンカレッジで親子向けの講座が始まるが、子どもセンターでも親子向けの講座がある。どういう違いがあるのか、一箇所ですべてやることはできないのか。子どもセンターの予算のほうが多いようだが、予算はどうなっているのか。

「事務局」 子どもセンターの予算は、8,584千円となっているが、子どもセンターそのものの予算は1,284千円である。残り7,300千円は、子どもセンターを通じて放課後子ども事業にあてられている。親子向け講座の住み分けだが、オープンカレッジでは、幼児と母親と一緒に参加できる講座に人気があり、子どもセンターでは土日に小学生が参加するというものになっている。

「委員」 親子向けの講座について、オープンカレッジで開講している講座の中に子どもセンターの講座を入れることはできないか。

「事務局」 子どもセンターで行っている講座については、商工会議所の少年少女発明クラブのボランティアの方々をお願いしているものもあり、現状では集約はむずかしい。

「会長」 放課後子ども教室に入れられない子どもはいるのか。

「事務局」 放課後子ども教室については、子どもの希望通り参加できている。参加する子どもは2割程度であり、1教室あたり年間10～20回程度の開催回数が基本。待機児童の補完となるものではなく、市の子ども課が所管する児童クラブとは目的や方法が異なるものである。

「委員」 ある放課後子ども教室の指導者から、希望者が定員を上回り全員を引き受けるかどうか迷ったが引き受けたという話を聞いたことがある。補助の指導者がほしいと思ったが予算がなくて補助の指導者はつけることができなかったと聞いた。補助の指導者の配置や予算について検討してほしい。

「事務局」 安全面を考えるとどのくらいの定員が良いのか判断がむずかしいが、改善できることは改善したい。

「委員」 指導者はボランティアだから無償という考え方もあると思う。ただ、交通費や食事代もかかるので報酬などについては基準を設けることも必要ではないか。

「会長」 事務局で検討してください。

「委員」 携帯電話やスマートフォンの利用に関して、子どもたちに指導をしている市もあるようだが、豊川市では子どもたちの携帯電話などの利用についてどのように指導しているのか。

「事務局」 豊川市や近隣市ではPTAがかかわっている。他市では、親が夜間に子どもから預かるよう指導しているところもあり、親子で話し合っ規則を作ることにより歯止めをかけているようだ。豊川市でも5月に校長会及び市P連の代表者会に諮って、夜間の使用を抑えるなど適正な使用の配慮について学校を通じて保護者に伝えている。

「委員」 昨年度、学校から県警にお願いして親子で使い方について話を聞く機会を設けた。携帯電話を扱う会社でも子どもたちの危険防止に協力してくれている。学校から保護者へ適正な使用方法を指導する文書も配布している。

「会長」 他に質疑がなければ議案１については、原案通りご了承いただいたものとします。各委員の皆様には、計画に沿ってご協力をお願いします。次に議題２の「平成２５年度社会教育関係各種実績について」事務局より説明をお願いします。

「事務局」 「平成２５年度社会教育関係各種実績について」資料に基づき説明。
(生涯学習課長、スポーツ課長、中央図書館長説明)

「会長」 合併により、多くの社会教育関連施設を抱え、その維持管理も課題となっていると思うがどのような状況にあるのか。施設の劣化や老朽化かはどうか。

「教育部長」 各施設の利用状況は順調だが、まだ伸び代があると思っているのでより利用しやすい施設にしていきたい。劣化や老朽化は進んでいくので優先順位を考え、順に修繕を行っている。全市的にファシリティマネジメントが課題となっている。合併により施設が増えた分予算も必要となるので、市民へより良いサービスを提供できるよう検討する必要がある。社会教育施設についても全市的な視点からこの課題に取り組んでいく。

「委員」 体育館などの施設について津波による災害を心配している利用者がいる。津波が到達するかどうかなど安全性を表示することは可能か。

「教育部長」 各施設に設置されている海拔の表示が適切かと思う。

「会長」 他に発言がなければ、議題２の「平成２５年度社会教育関係各種実績について」の質疑を終了します。本日の議題は以上ですので、これで会議を閉会いたします。

(午前１１時５８分 閉会)